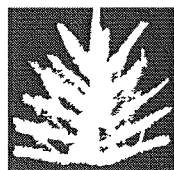


財 務 諸 表 論

フォローアップセミナー

【3・4月開催】

理論リカバリー講義



資格の学校

TAC

フォローアップセミナー

財務諸表論・理論リカバリー講義

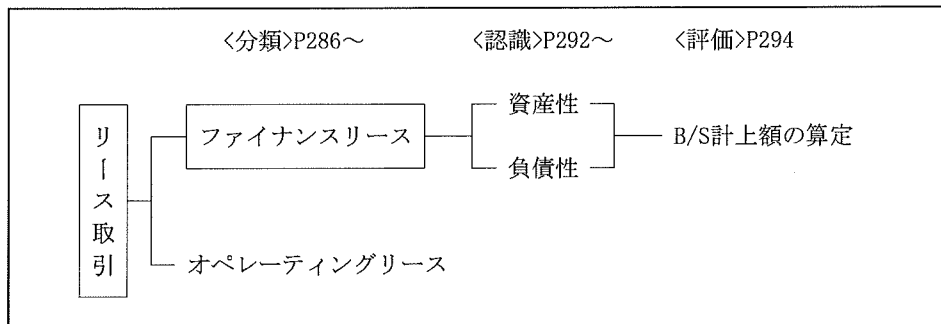
リース会計

理論テキストページ

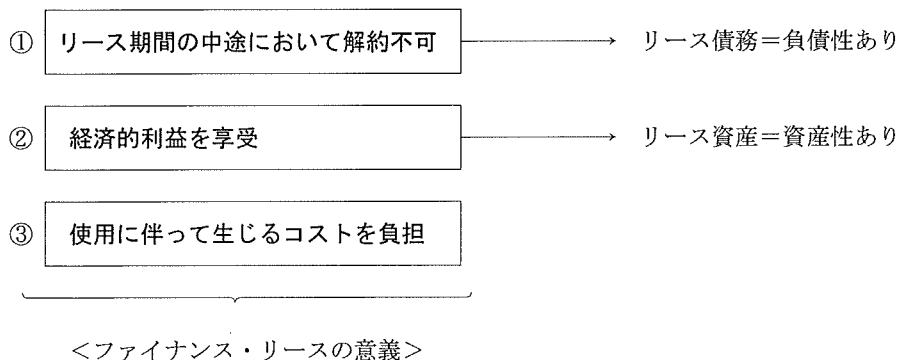
(1) ファイナンス・リース取引	286
(2) 売買取引に係る方法に準じて会計処理する理由	290
(3) リース資産	292
(4) リース債務	293
(5) リース資産・リース債務の計上額の算定	294

<メ モ>

1 リース会計の論点



2 ファイナンス・リースの意義と資産性・負債性



3 売買取引に係る方法に準じて会計処理する理由

基本的な考え 経済的実態が同じ ⇔ 同じ会計処理

ファイナンス・リース取引＝売買取引 ⇔ 売買取引に係る方法に準じて会計処理
↑

- ① リース物件の割賦購入
- ② 借入資金によるリース物件の購入

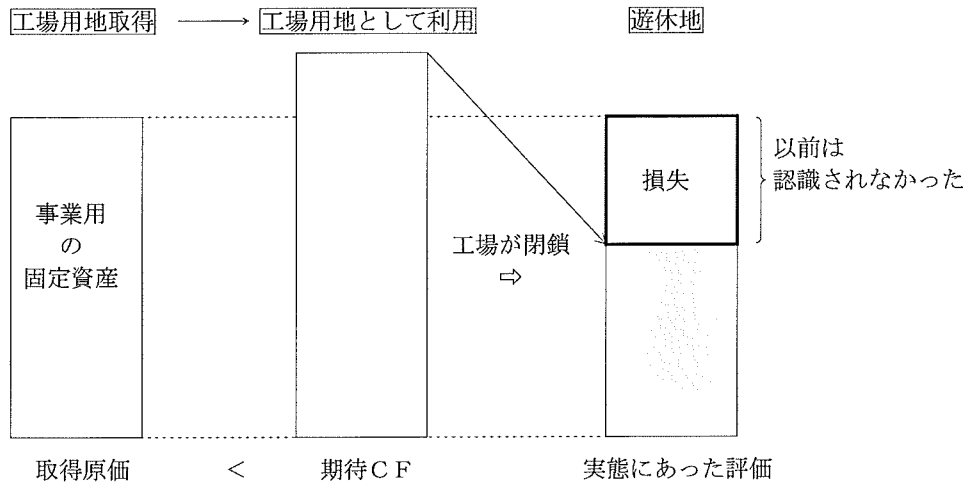
減損会計

理論テキストページ

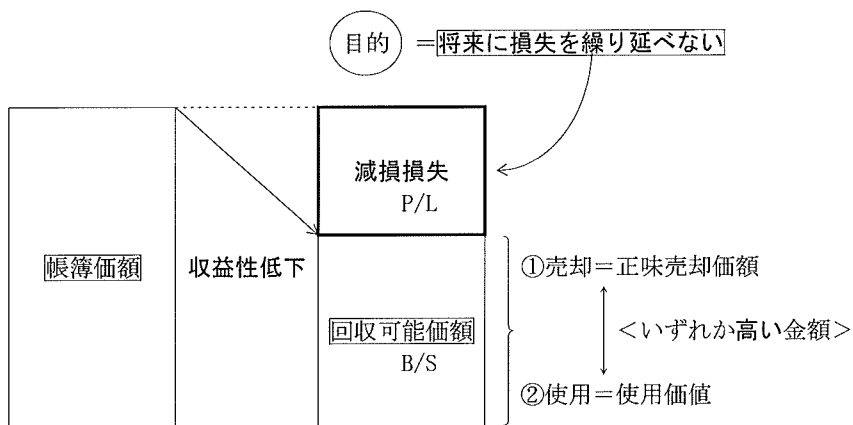
(1) 減損処理とは	300
① 減損処理の意義	
② 減損会計の目的	
(2) 減損処理と時価評価の相違	304
(3) 減損損失の認識	307
(4) 減損損失の測定	308

<メ モ>

1 減損会計導入前の問題点

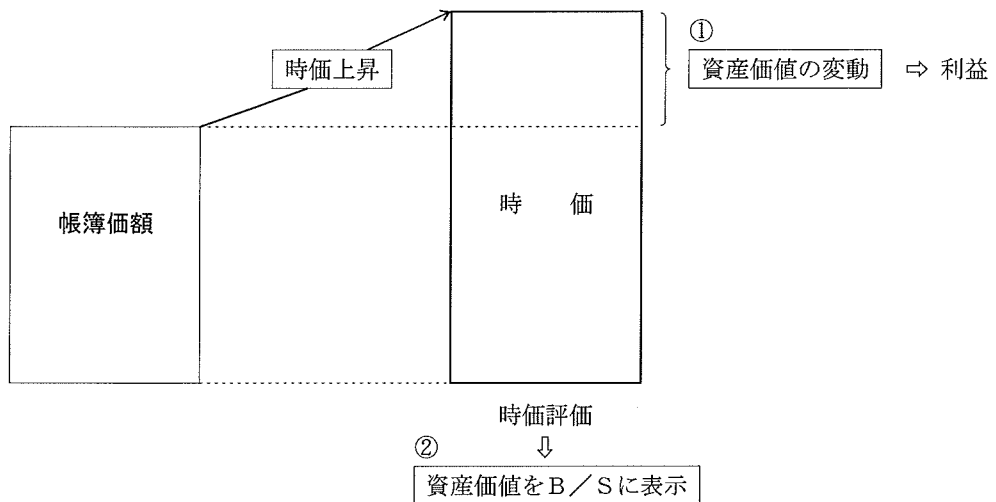


2 減損会計

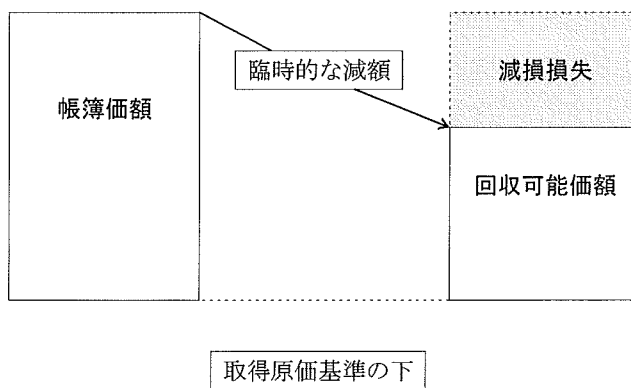


③ 減損処理と時価評価の相違

(1) 時価評価



(2) 減損処理



* 取得原価基準の課題 (イメージ)

⇒ 取得原価をどのように費用化していくのか

工事契約会計

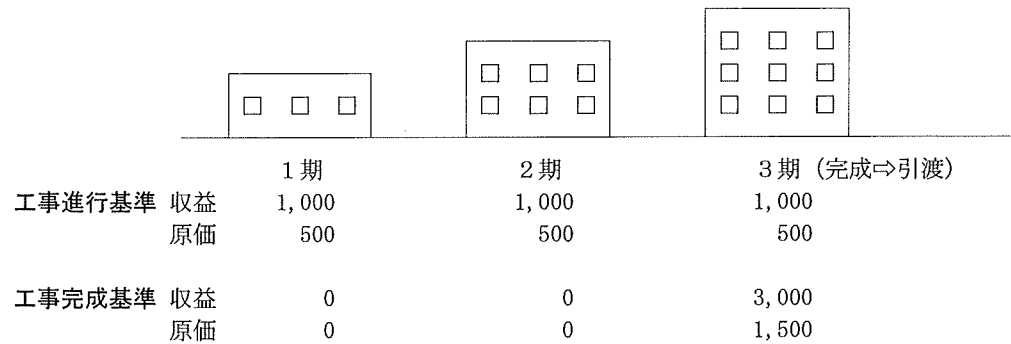
理論テキストページ

(1) 工事契約に係る認識	392
① 工事契約に係る認識	
② 成果の確実性	
(2) 工事進行基準と工事完成基準	398
① 工事進行基準	
② 工事完成基準	
(3) 工事契約から損失が見込まれる場合の取扱い	400
① 工事契約から損失が見込まれる場合の取扱い	
② 工事損失引当金計上の考え方	

<メ モ>

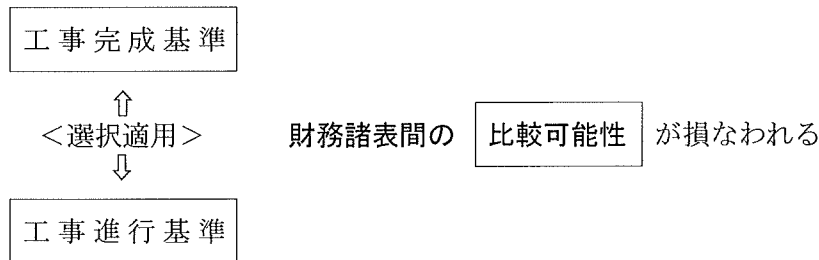
1 工事進行基準と工事完成基準のイメージ

工事収益総額＝3,000、工事原価総額＝1,500、工期＝3年

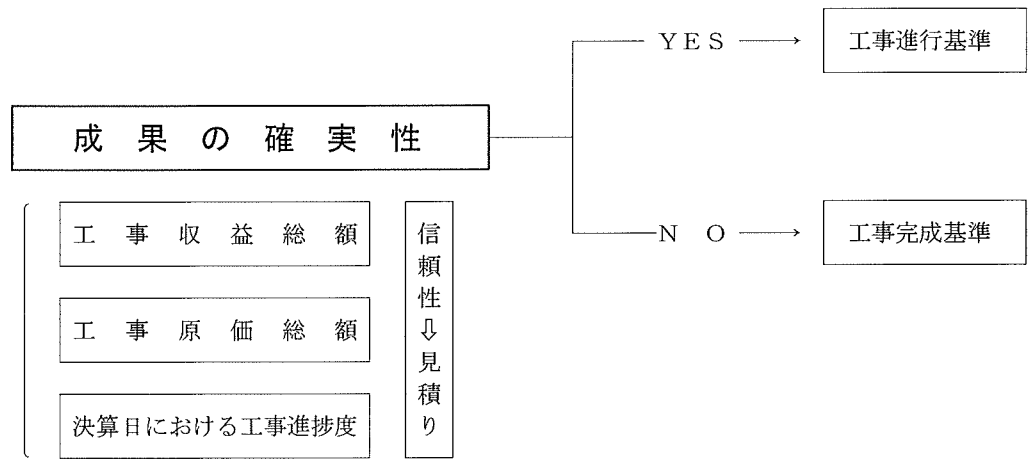


2 工事契約会計（平成21年4月1日～）

(1) 従来（企業会計原則）



(2) 工事契約会計



③ 成果の確実性とは①～③を信頼性をもって見積ることが出来ること

① 工事収益総額

- ・ 工事の完成見込が確実である
- ・ 契約において対価の定めがある

② 工事原価総額

- ・ 適時・適切に工事原価総額の見積りの見直しが行われる

③ 決算日における工事進捗度

- ・ 見積方法＝原価比例法（＊）

（＊）原価比例法

決算日まで実施した工事に関して発生した工事原価が工事原価総額に占める割合をもって決算日における工事進捗度とする方法

④ 引当金の計上要件と工事損失引当金

<引当金の計上要件>

- ① 将来の特定の費用又は損失
- ② 当期以前の事象に起因
- ③ 発生の可能性が高く
- ④ 金額を合理的に見積ることが出来る

<工事損失引当金>

- ⇒ 工事契約による損失
- ⇒ いずれの原因→過去の事象
- ⇒ 総原価>総収益の可能性高
- ⇒ 金額を見積ることが出来る

基準